

仕事のやりがい

起業して7年、初期に作った木の器のメンテナンスに来られるお客さまが徐々に増えました。「一生物」という言葉は、使ってくださいの方の気持ちがないと成り立ちません。今まで大切に使用していただいて今後も愛用していただける…身が引き締まります。

この仕事を始めたのは

木の器を製作する「木製食器製造業」職場体験で日本伝統工芸技術の「挽物」に出会いました。木をろくろで回し、そこに刃物を当てる。だんだん形が丸くなり、細長い木くずがシュルシュル出てくるの見て「気持ちいい」と感じたんです。



もっこうか
木工家

仕事で大変なこと

当初、「作る」だけが仕事だと勘違いをしていました。「販売する」「管理する」「教える」「デザインする」などたくさんの技術を磨くことも必要です。すべてをうまくできる人には、なかなかありませんが、それぞれ得意な人のことをよく見て学ぼうと思います。

つじ しょうへい
辻 翔平さん

奈良県生まれ／福岡県育ち／下関市在住歴8年

移住編 仕事図鑑

このページは、小・中学生、高校生を対象に市内で働く人・職業を紹介しています。先輩たちのメッセージを参考に、未来の自分を探してみませんか。

「下関の木工所である意味、下関で育った木材だけでなく、下関で育った木を自分で伐採し、使用しています。伐採・乾燥し、器にします。そのすべてが工程にしっかりと自分自身が関わり、木の樹齢や生育した場所など、木の生きた証をストーリーと共に伝えていきます。トリーと木を共に伝えていく、地元の生木を活用した体験キットを開発中。辻さんの木と下関への愛情が広がっています。

木が秘める魅力を器に
豊浦町のなだらかな山々に囲まれ、眼下には海岸線が見える「ムクロジ木器」。心地よい木の香りと、辻さんの晴れやかな笑顔が迎えてくれます。まず辻さんは、帯鋸番といわれる大型の切断機で木材を粗く加工します。その後、木工ろくろに取り付け、高速で回転する木に刃物をそっと、時に力強く当てながら、それぞれの木が持つ独特の質感や木目の味わいを表現します。最後に塗装し、見た目を美しく、水や油が染み込まない、実用的な器に仕上げます。また木工所から出て、大学講師や展示会、ワークショップなど、木の魅力を伝える活動もしています。

キレイでしょ？光が浮かばせる幾重もの木目に、心を奪われます。



子どもがなりたい職業に木工家があるとうれしい。

